令和６年度

事　業　報　告　書

届けよう　小さな愛

つなげよう　笑顔の輪

令和６年度の事業及び決算の報告について

町民の皆さまには、日頃より湯沢町社会福祉協議会の活動に対してご理解とご支援ご協力を賜り誠にありがとうございます。改めて感謝と御礼を申し上げます。令和６年度の事業実施状況及び決算状況がまとまりましたのでここに報告させいただきます。

令和６年度は、近年の在宅介護に係る住民の皆さまの意識の変化や従前からの少子高齢化の影響もあり、当社協の介護サービスを利用される方々の人数が減少し、大変厳しい決算となってしまいました。今後、利用してくださる方々の人数がどの程度になるのかはまだ予想することはできませんが、当分はこのような状況が続くのではないかと見込んでおります。このことは、介護事業を大きな柱として実施してきた当社協にとっては大変重要な問題であるため、今後の動きを注視していきたいと考えています。

さて、最近、諸物価の高騰と米国の関税政策の行方がそれぞれ大きな問題になっているようです。どちらの問題も私たちの生活に大きくかかわってくる事柄であり、それらの動向が今後の福祉業務にどのような影響を及ぼしていくのか、こちらにも目を向けていく必要があります。

湯沢町社会福祉協議会は限られた人員と限られた予算で活動しておりますが、皆さまの笑顔と明るい町づくりのため、役職員一同共通の理念を持って業務の運営に当たっていることをご報告させていただきます。

令和７年度も引き続きご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和７年５月

社会福祉法人　湯沢町社会福祉協議会

会　長　　髙　橋　政　弘

湯沢町社会福祉協議会の理念

「みんなでつくろう　あったかい町　ゆざわ」

・ 地域社会に対して社協は何をなすべきか、自分の責務は何かを常に考える。

・ 組織内の融和を図るとともに、職員全員が協力して業務を遂行する。

・ 湯沢町社協の歴史を認識し、更なる発展のため一歩一歩を町民とともに歩む。

事　業　報　告

１．理事会・評議員会等

	開催数	日にち
理事会	４回	５月 30 日，７月 18 日，12 月 19 日，３月 19 日
評議員会	２回	６月 14 日，３月 27 日
評議員選任・解任委員会	０回	
会計監査	１回	５月 22 日 上記の他、税理士法人による外部監査を 11 回実施

※　その他必要に応じて会長・副会長・事務局長会議を開催

２．役職員体制

（1）理　事　　７名　　R5.6.22 改選（任期２年）
（2）監　事　　２名　　R5.6.22 改選（任期２年）
（3）評議員　　８名　　R3.6.10 改選（任期４年）
（4）職　員

R7.3.31 現在　　（　）内は R6.3.31

	事務局	訪問介護	通所介護	居宅介護支援	児童クラブ	計
正職員	５（５）	５（５）	８（10）	２（１）	３（３）	23（24）
準職員	０（０）	０（０）	１（ １）	０（０）	１（０）	２（ １）
登録職員	２（２）	２（２）	13（13）	１（０）	７（７）	25（24）
嘱託職員	０（０）	０（０）	０（０）	１（２）	０（０）	１（ ２）
計	７（７）	７（７）	22（24）	４（３）	11（10）	51（51）

＊　兼務職員は本来業務の所属に掲載
＊　訪問介護職員１名採用（令和６年４月１日採用）
＊　通所介護事業所は前年度末で退職者が２名、６年４月１日付で正職員１名採用したが中途退職した。介護職員数の減と看護職で常勤的勤務の登録職員が７月末で退職し看護職の正職員１名の体制となったため、８月から営業日数を６日から５日に減らし、休業日を土日とする運営に変更した。
＊　居宅介護支援では、訪問介護事業所職員１名を内部異動で介護支援専門員に配置し、嘱託から登録職員となる者１名
＊　児童クラブは、育児休業職員の代替えで準職員を１名採用した。

３．主な行事・大会

期　日	内　容	会　場	参加者
４月　１日	職員辞令交付	事務室	職員
23 日	町老人クラブ連合会役員会	湯沢町公民館	事務局
25 日	保護司会総会	ふれ愛支援センター	事務局
５月 17 日	第１回地域福祉活動計画策定委員会	総合福祉センター	事務局・策定委員会委員
	地域福祉推進座談会（研修会）	カルチャーセンター	事務局・ボラ連
22 日	会計決算監査	総合福祉センター	監事・事務局
30 日	第１回理事会	総合福祉センター	理事・監事・事務局
６月 14 日	第１回評議員会	総合福祉センター	評議員・会長・監事・事務局
７月　１日	社会を明るくする運動	町内全域	湯沢地区保護司・事務局
	県社協事務局長会議	総合福祉センター	局長：遠隔会議（リモート）
５日	高齢者運動会	カルチャーセンター	会長・事務局
18 日	第２回理事会	総合福祉センター	理事・監事・事務局
10 月３・４日	社協会長研修	村上市	会長
８・９日	湯沢町社協・ボラ連視察研修	陸前高田市、南三陸町	会長・理事・ボラ連委員他
11 日	湯沢町高齢者福祉大会	湯沢町公民館	会長・事務局
20 日	ふれあい福祉健康フェスティバル	カルチャーセンター	会長・事務局・ボラ連
22 日	南魚沼地区社会福祉大会	ふれ愛支援センター	会長・副会長・事務局
29 日	新潟県民福祉大会	新発田市民会館	会長・理事・事務局
31 日	福祉資金巡回訪問	総合福祉センター	事務局
11 月５日	保護司会保護司候補者検討会	南魚沼福祉センター	事務局
15 日	町議会生活福祉常任委員会意見交換会	総合福祉センター	事務局
20 日	草津町民協視察	総合福祉センター	事務局
27 日	町長要望	役場町長室	会長・副会長・事務局
12 月 19 日	第３回理事会	総合福祉センター	理事・監事・事務局
１月 27 日	通所介護事業所会議	総合福祉センター	事務局
２月５日	第２回地域福祉活動計画策定委員会	総合福祉センター	事務局・策定委員会委員
３月４日	第３回地域福祉活動計画策定委員会	総合福祉センター	事務局・策定委員会委員
５日	町議会生活福祉常任委員会審査	湯沢町役場	事務局
19 日	第４回理事会	総合福祉センター	理事・監事・事務局
26 日	保護司会関係者会議	ふれ愛支援センター	事務局
３月 27 日	第２回評議員会	総合福祉センター	評議員・会長・監事・事務局
27 日	県社協評議員会議	総合福祉センター	会長：遠隔会議（リモート）

４．法人運営

（1）信頼される法人運営

社協は民間の社会福祉活動を推進することを目的とした非営利法人です。当会の業務は町民や福祉関係者に支えられた「公共性」と、デイサービスやヘルパー等の介護サービス経営を行う「事業性」の二面を有しています。近年は介護保険事業において、介護報酬単価が上がらないことや介護人材不足・利用者数の減少により事業の採算が取れない状況に苦慮しております。

６年度も会員である町民の皆さんが「安全・安心に暮らせる町」を目指し、町内会や民生委員児童委員協議会、町健康福祉部をはじめとした団体及び各種関係機関との連携を図り、町民から信頼される法人運営と事業展開に努めました。

（2）社協会費

社協の運営と活動は、皆さまからの会費（700 円）と町からの補助金、そして共同募金の配分金や県社協の補助金、さらに介護保険事業収入などで賄われております。

5 月 20 日開催の町内会長連絡会議において町内会長の皆さまに社協会費の取りまとめをお願いし、納入いただいていることにお礼申し上げ、併せて地域福祉事業の向上のため引き続きご理解とご協力を賜るようお願いいたしました。また、事業所等の皆さまにも特別会員としてご加入いただくよう勧めてまいりました。

社協会費収入の推移　　単位：円

年度/内容	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R 6年度
一般会費	1,367,100	1,374,300	1,369,900	1,355,900	1,334,200
特別会費	36,000	36,000	36,000	44,000	40,000
計	1,403,100	1,410,300	1,405,900	1,399,900	1,374,200

会費の主な使途は、次のとおりです。

〇援護費　　（長期入院入所者援助、母子父子世帯援助）
〇地域福祉費（老人福祉、障害者福祉、ボランティア活動、町内サロン等）
〇助成金　　（ボランティア団体）

（3）財務の適正運営

財務運営については社会福祉法人会計基準及び湯沢町社会福祉協議会経理規程に則り適正に執行しています。監査については、２名の監事による内部監査を年１回実施するとともに、社会福祉法人の運営と経理に精通した税理士法人に毎月の外部監査を委託し、より高度な監査体制で適切な会計運営を行いました。

（4）第２期湯沢町地域福祉活動計画の最終評価と第３期計画の策定

幅広く町民および関係者の意見や要望を取り入れながら計画策定をするため、地域福祉活動計画策定委員会を設置し、14 名の委員により第 3 期計画を策定しました。

策定委員会開催	令和６年５月 17 日
	令和７年２月５日
	令和７年３月４日

◎あったか町づくり座談会開催

期　日		開催地区	会　場	参加者
８月	22 日	神　立	神立中央集会場	町民・理事・社協職員
	27 日	湯　沢	湯沢町公民館	町民・理事・監事・社協職員
	29 日	土　樽	農山村開発総合センター	町民・会長・理事・社協職員
９月	９日	三　俣	みつまた地区館	町民・社協職員
	11 日	三　国	湯沢町公民館浅貝分館	町民・社協職員

（5）通所介護サービス利用者送迎事業（継続）

当会の送迎車両を活用し、シルバー人材センター運転員・付添員による三国地区等のデイサービス利用希望者の送迎を実施しました。水木金曜日に稼働し、延べ９名の利用者を２か所のデイサービスに送迎しています。

（6）三国地区訪問介護サービス地域間格差是正事業（継続）

三国地区の訪問介護サービスにおいて、遠距離による格差を是正するため、令和５年 7 月から三国地区訪問介護サービスの効率化のため、利用日を固定化しての事業を始めました。本事業は、町から事業支援を受け実施しています。

（　利用日：毎週土曜日の１日と隔週木曜日の午後　）

５．地域福祉事業

基本目標Ⅰ　『これからの地域を支える「人」を増やそう』

実施プランⅠ：参加・活動できる場面をつくろう

（1）個々のボランティア活動、湯沢町ボランティア連絡協議会の活動を支援します。

ボランティアセンター機能であるコーディネートや活動に対する支援を実施しました。10 月 20 日（日）に湯沢町ふれあい福祉健康フェスティバル開催が開催され約 550 人の来場がありました。

（2）新たな人材発掘、育成の為の講座等の企画、活動の PR をしました。

①　5 月 26 日研修会「みんなでつくろう　あったかい町　ゆざわの実現に向けて」を開催（　湯沢町ボランティア連絡協議会共催　）

②　広報「社協ゆざわ」やホームページを活用し、活動希望者の募集を行いました。

（3）既存の取り組みや活動を把握し、コーディネート機能を充実しました。

個人・団体加入しているボランティアや活動を把握し、必要時に相談や調整・紹介を行いました。

実施プラン２：みんなで意識を高めよう

傾聴ボランティアおひさま主催の研修会開催の支援を行いましたが、若い世代の参加は叶いませんでした。

実施プラン３：全世代でふくし教育を進めよう

（1）ボランティア体験、福祉体験、認知症サポーター養成講座の開催

湯沢学園や児童クラブと連携し、夏休みボランティア体験を実施することで福祉教育の推進を図りました。昨年より小学 1 年～9 年生までと参加申し込み対象を広げ、また新規内容も加え実施しました。

① 夏休み中のボランティア体験（活動別延人数）

ボランティア内容	児童クラブ	一般生徒	計	昨年	増減
配食サービス	0	44	44	24	20
いきいきサロン	5	7	12	15	－3
音声訳体験	0	0	0	5	－5
点字で名刺を作ろう	0	8	8	1	7
手話で歌ってみよう	0	4	4	1	3
車椅子体験	0	4	4	2	2
アクション農園	6	0	6	6	0
ボッチャ体験	0	15	15	19	－4
24 時間テレビ街頭募金	0	0（台風で中止）	0	21	－21
カステラ作り教室	0	24	24	15	9
避難所づくり	0	12	12	10	2
新　縄ない教室	0	6	6	0	6
合　計	11	124	135	119	16

② 認知症サポーター養成講座

日にち	会　場	参加人数
令和６年 12 月 25 日	湯沢児童クラブ	児童　18 名
令和７年３月 21 日	大樹販売湯沢支店様	職員　５名

③ 防災教育　…　アルファ米非常食を使った災害時訓練
８月９日開催　湯沢児童クラブ 28 名，赤十字奉仕団５名参加

（2）学校地域での事業の企画支援

湯沢学園 7 年生を対象に車いすラグビー日本代表選手による講演会、体験会開催を支援しました。…　参加中学生 44 名

ラグビー体験

（3）湯沢学園や湯沢児童クラブと連携した多世代参加事業の実施
（しめ縄づくり教室　12 月 28 日開催　８名参加　）

（4）福祉教育推進地区支援事業
支援事業利用地区はありませんでした。

基本目標Ⅱ　『みんながつながる場をつくろう』

実施プラン１：みんなが集まれる場づくり

世代の異なる人や障害の有無等にとらわれない交流の場として、男の料理教室、ボッチャの会、針と糸の会の開催・運営支援を行ないました。

実施プラン２：気軽に集まれる場を増やそう

生きがいの場となっている各種サロン活動の充実を図りました。　　（R5）

項　目	ふれあいサロン	いきいきサロン	やまぶきの集い
開催回数	48　(48)	42　(45)	12　(12)
延参加者数	175（190）	469（530）	72　(97)
延ボランティア数	72（121）	324（341）	78　(78)
１回当り参加者数	4　　(5)	11　(12)	6　　(9)

実施プラン３：想い・悩みを話せる場づくり

当事者組織の活性化や出会いの場づくりとして、町内の関係団体への活動支援を行いました。また、各団体と連携することで、生じている課題等の検討を行いました。

・民生児童委員協議会　　・知的障害者団体　・身体障害者団体
・ボランティア連絡協議会　・保護司会　　・老人クラブ連合会　　・その他

基本目標Ⅲ　『みんなで支え合える仕組みづくり』

実施プラン１：困りごとをみんなで支え合おう

（1）湯沢町より生活支援体制整備事業を受託し、生活支援コーディネーター業務と協議体運営業務を実施しました。地域の助け合い体制づくりとして住民参加型在宅福祉サービス湯沢つながり隊や湯沢雪堀隊の運営を行ないました。　（R5）

①　湯沢つながり隊の利用実績					
延べ利用件数	203 件（224 件）		活動会員実人数		5 名（7 名）
利用実人数	7 名（9 名）		活動支援費		1 時間：400 円
活動内容	買い物	ゴミ出し	通院手続介助	話し相手	その他
	6 件（4 件）	144 件（172 件）	7 件（8 件）	24 件（24 件）	22 件（16 件）

②　湯沢雪堀隊の利用実績			
延べ利用件数	21 件（4 件）	活動会員実人数	3 名（2 名）
利用実人数	2 名（1 名）	活動支援費	1 時間：1,000 円
活動内容	家周り除雪、玄関先帰路除雪		

実施プラン２：孤立しない地域にしよう

配食サービスや安心安全見守りネット、湯沢つながり隊やその他事業、関係専門職と連携を図り、情報共有することで住み慣れた地域で安心して暮せるよう見守り体制を整えました。また、当協議会ではさまざまな事業や受託事業を行うなかで、訪問・見守り体制の確立や多様な機関との連携を図りました。

① 安心安全見守りネット事業

高齢者世帯や障害をお持ちの世帯で見守りが必要な方へ、週 1 回程度支援員が訪問し安否確認を行いました。(R5)

【　訪問対象世帯 6 世帯（8 世帯）　延 247 回訪問（280 訪問）　】

②支えを必要とする人たちへの支援状況は、次のとおりです。　　単位：人・千円

事　業　名	利用者数（R5）	決　算	備考（財源）
長期入院入所者援助	20（13）	600（390）	共同募金、会費
歳末助け合い慰問	69（72）	550（569）	共同募金
行路人旅費支給	4（6）	12（4）	町補助金
母子父子世帯入学卒業祝い金支給	1（0）	5（0）	会費、町補助金
配食サービス	68（68）	3,526（3,606）	町受託事業
高齢者世帯等住宅除雪援助	55（25）	3,979（　247）	町受託事業
家族介護用品支給	29（41）	1,361（1,552）	町受託事業
保育支援	－	3,241（3,002）	町受託事業
ひきこもり支援	0（0）	0（0）	町受託事業

基本目標Ⅳ　『みんながつながるために「しらせ」を広げよう』

実施プラン１：みんなにしらせを届けよう

広報紙「社協ゆざわ」を年 4 回発行しました。写真を多く活用し、見やすく目に留まるよう工夫し、紙面だけでなくホームページ等も活用しました。

実施プラン２：みんなの思いを受け止めよう

総合福祉センターの窓口機能として、来所や電話での相談があった時は一旦受け止めた上で判断し、必要な支援者・機関へ紹介しました。また、個別ケースにおいては自宅へ訪問し、他機関と協働しながら相談や支援を行ないました。

（1）資金等貸付け事業の実施　…　資金等貸付事業の実施状況は、次のとおりです。

①生活福祉資金貸付状況

制度の種類	新規件数 金額	状　況　等
新潟県社協 福祉資金制度	０件	コロナ総合支援 13 件中　　５件終了（免除含む） コロナ緊急小口 55 件中　23 件終了（免除含む） 東日本大震災特例貸付８件中　１件終了 総合支援資金　　１件
湯沢町社協 小口資金	４件 92,000 円	受付件数　38 件 内　　容　相談と食料支援対応 資金残高　R7.3 月末 1,175,336 円 （R6 年度末 1,194,691 円）

令和２年から令和４年９月末までコロナ感染拡大の影響を受けて休業や失業などによる収入の減があった方への貸し付けを行いました。今後も返済について長期にわたり対応していくことになります。

（2）受託事業

①日常生活自立支援事業　1293 千円（1,388 千円）

認知症高齢者や知的障がい者・精神障がい者等で、日常生活を営む上で支障や不安のある方に対し、金銭や書類の管理、福祉サービス利用の支援を行いました。

利用者数	15 名（19 名）	延べ相談件数	287 件（445 件）
生活支援員数	11 名（11 名）	延べ支援回数	93 回（154 回）

②成年後見制度法人後見支援事業　　58 千円（162 千円）

令和６年９月に新規１名受任し、高齢者３名の後見支援を行いました。昨年度より継続している終了者１名の相続人不在者戸籍調査を実施しています。後見活動延べ件数は、280 回となっています。その他、成年後見制度申立ての支援とその他相談等を適宜実施しています。（延べ３件）

○　終活ミニ研修会「現代のお葬式事情」開催　（　３月６日開催　18 名参加　）

６．指定管理業務

◎　湯沢児童クラブの運営

湯沢児童クラブを指定管理業務として受託してから、９年が経過いたしました。

本来の児童クラブの運営の他、社会福祉協議会の特徴を活かした行事をはじめ、要保護児童や保護者支援、不登校支援等様々なケースに対応し、児童クラブの役割や重要性を再認識出来ました。

今後は、支援や配慮を要する児童・家庭等の受け入れによる指導員の確保に加え、多様化する利用者(区域外就学児童等)の受け入れについて、湯沢町と湯沢町教育委員会等と協議すること、設備や環境を最大限に活かすことが課題となります。

（1）利用件数と収入の推移　　（単位　　千円）

区　分	R２	R３	R４	R５	R６
指定管理料	8,752	8,368	9,381	12,621	13,700
利用料収入	2,578	2,497	2,645	3,072	3,598
利用児童数（延）	3,959 人	4,169 人	5,547 人	6,029 人	7,216 人
実績内訳	年間延べ利用児童数				7,216 人
	通年利用児童数（延）				6,850 人
	長期休暇時利用数（延）				356 人
	スポット（一時）利用				10 人

（2）特に留意した取り組み

①安全に過ごせる環境づくりへの取り組み

児童の様子を伝えるなど保護者とのコミュニケーションを積極的に行うことで、保護者の困り感にいち早く気付き、支援に繋げることが出来ました。

②指導員の資質向上のための取り組み

指導員の情報共有のため、≪相談・対応シート≫や≪ヒヤリハット≫を活用し業務開始前の情報交換を積極的に行いました。更に参加した研修内容を指導員間で共有し、資質向上に努めました。

③施設や環境を最大限に活用するための取り組み

・デイサービス訪問やふれあい健康福祉フェスティバル参加など、ボランティア団体等の協力を得て、子どもたちに様々な体験の場を提供することが出来ました。

・要支援児童や不登校支援等様々なケースに対応するよう、子育て支援連絡会や不登校支援ミーティング等に参加し、学校や保健師、児童相談所等との情報共有を行うことで、児童クラブの機能を生かした支援を行えました。

〇実施した主な事業や行事

ボランティア体験 （希望者のみ）	・農園作業体験（認知症アクション農園） ・いきいきサロン（高齢者と交流）
夏休み行事	・絵本の読み聞かせ　（虹の会） ・手話で遊ぼう！　(講師：志田春美さん) ・防災学習　…　避難訓練・防災食体験・災害学習 （湯沢町赤十字奉仕団・社協事務局等） ・水遊び・おたのしみ会等
その他	・手作りおやつ・・・週１・２回（長期休みを除く） ・ふれあい健康福祉フェスティバル参加・・・手話ソング ・認知症サポーター養成講座(冬休み) ・デイサービス訪問(冬休み２回) ・まるまる～む(不登校支援)

７．介護保険・障害福祉事業

６年度は、居宅介護サービス利用者数の減少傾向が顕著になった年になりました。ここ５年間での訪問・通所・居宅介護支援事業の利用者数は年々減少し、訪問ではＲ２比較で２割減、通所ではＲ３比較で４割減、居宅介護支援ではＲ３比較で３割減です。利用者数の減少は直接収入減となり、赤字での事業運営が続いてきました。６年度は３事業で2,000万円超えの赤字となり損失補填に備品購入基金取崩しで対応しました。

居宅介護サービス利用者数の減少は、居宅介護力の低下による施設入所の増、既利用者の死亡、利用開始年齢の高齢化で利用期間が短くなるなどが理由と考えます。

この傾向は数年続く可能性があると見込んでおり、当町においては訪問介護と通所介護サービスの需要量は、一旦山場を超え減少する可能性もあると思います。

最近の新聞報道で、政府の推計によると介護需要について全国の町村で３割程度が既にピークを越えたと見込まれる。今後の介護サービスの提供体制の確保、地域の特性に応じた効率化など、早めの取り組みが必要との記事がありました。

当会としては、当町もその一つと思います。需要の変動に合わせての介護保険事業の運営、そして対応を検討していきたいと考えております。

◎　訪問介護事業所

訪問介護は中山間地における在宅介護の原点であり、湯沢町においては、遠隔地(三国方面)の利用者への訪問は、地形上経営的に非効率であること等もあり、当事業所だけが運営しています。

（1）訪問件数と介護保険収入の推移　　（単位　件、千円、％）

区　分	R2	R3	R4	R5	R６
利用件数	6,182	6,016	5,957	4,825	4,814
収　入	28,910	30,283	29,438	22,641	23,177
収入前年対比	99.1	104.7	97.2	76.9	102.4

・　11 月から特定事業加算Ⅴを取得したため収入増

（2）目標達成への取り組み

○　重点目標

①　新規利用者を積極的に受け入れるとともに、新しい加算を取得し収入増に努める

可能な限り新規利用者を受け入れ収入増に努めました。また新しい加算を取得するため、加算要件となっている研修を受講し条件が整い次第取得できるよう準備を整えました。（認知症介護実践リーダー研修・期間　８月～10 月）

※現在は加算要件に足りず取得できていません。

②　利用者の立場に沿った訪問介護サービスを適切に提供し、住み慣れた場所で可能な限り自立した生活を営むことができるよう努める

利用者個々へのかかわり方やケアの方法等統一した対応ができるよう日々の様子を詳細に記録し情報共有に努めるとともに、関係機関とも連絡を取り合い利用中の様子を細かく情報伝達しながらそれぞれのケアに活かしました。

③　提供するサービスの評価と資質向上

内部・外部研修・地域ケア会議・個別検討会へ参加し、個々のスキルアップや資質向上に努めました。毎月のミーティング研修の内容について意見交換や勉強会を行い、業務に対する知識・技能の向上に努めました。

研修内容	・苦情対応研修 ・認知症介護実践リーダー研修 ・介護員資質向上等推進事業研修 ・嘔吐物処理方法について	・「カスタマーハラスメント対応研修」 ・訪問介護事業所の生き残る道を考える研修 ・高齢者虐待防止研修

人的体制の状況	令和６年４月	正職員　採用	１名
	令和７年３月末	登録職員　退職	▲　２名
	※Ｒ７．４現在、常勤職員５名となっています。		

◎　通所介護事業所

多くの利用者の要望に応えていくため最大限の努力をするとともに、経営状況の改善にむけて、更なる稼働率アップを目指しました。

職員数（介護職・看護職）の減少により、８月から営業日数を６日から５日に変更（休日を土日）しました。土曜利用者には他の営業日に変更していただくなど利用者数を落とさないよう努めました。

（1）利用件数と介護保険収入の推移　　（単位　件、千円、％）

区　分	R2	R3	R4	R5	R6
利用件数	6,999	7,726	7,439	7,670	5,360
収　入	68,126	73,825	68,854	70,919	51,156
収入前年対比	98.4	108.3	93.3	104.2	71.3

・利用者実人数の減少が年度当初から始まり、年度末には 20 人超えの減となった。

（2）目標達成への取り組み

○　重点目標

①　利用者との信頼・理解を深め、ケアの質の向上を図ります。

信頼関係を築くことは、利用者が安心して生活できる環境を作る基盤です。内部研修を活用し接遇やケアの質の向上について学び、お一人お一人に寄り添う事で利用者の意向や思いを職員間で共感し、質の高いケアを提供できるように努めました。

また、当事業所の役割は他職種が関わる事で利用者のケアを中心に捉えたサービスの提供です。その中で利用者とのコミュニケーションは信頼関係を築き、ケアの質を向上させるために不可欠になります。利用者との対話を通じ、意欲や希望・ニーズの把握に努めました。また、利用者の表情や仕草・言葉の裏に隠された意味を読み解きながら個別のコミュニケーションスタイルを確立し、それぞれの利用者に合った方法でコミュニケーションを図りました。

②　チームワークを大切にした事業所・体制を目指します。

介護の仕事はチームワークによって提供され、チームワークがサービスの質に大きな影響を与えます。相手の立場や意見を尊重する風土作りに皆で意識し取り組み「自分の意見が正しい」ではなく、「こんな意見があったのか」と共感し合える雰囲気作りに努めました。

しかし、チームワークをいつでも発揮できるように活発なコミュニケーションを意識しましたが「和やかな職場作り」ができていない場面も多々みられ、取り組みについて課題を残す形となりました。

③　感染症予防対策を引き続き実施し、施設内感染予防に努めます。

コロナ禍より引き続き、ご本人・ご家族からの協力を頂きながら健康状態の把握や情報収集に努め、感染拡大防止に向けた体制維持など事業所全体で予防対策が定着しています。

感染症に対する業務継続計画には、「平時の備え」「初動対応」「感染拡大防止体制の確立」などがガイドラインに定められているので、引き続き感染管理体制・日頃の対策・感染症発生時の対応などを連携して取り組んでまいります。

人的体制の状況	令和６年４月	正職員　採用 年度途中で退職	１名 ▲１名
	令和７年３月末	正職員　　退職（定年） 準職員　　退職（自己都合） 登録職員　未更新	▲１名 ▲１名 ▲４名
	※Ｒ7.4 現在、正職員　７名 登録職員 10 名（うち２名障害者枠と消毒担当）		

◎　居宅介護支援事業所

居宅介護支援は、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、心身の状況や置かれている環境に応じた介護サービスを利用するためのケアプランを作成し、そのプランに基づいて適切なサービスが提供されるよう、事業者や関係機関との連絡・調整を行いました。コロナウイルス感染症が５類に移行したことで、コロナ感染症との共存を見据えながら、住み慣れた地域の中で自分らしい生活ができるように、地域の特性を踏まえ支え合う仕組みづくりを意識しながら、多職種や地域社会との広範な連携を今後も進めてまいります。

（1）居宅介護支援事業の利用件数と収入　　（単位　件、千円、％）

区　分	R２	R３	R４	R５	R６
利用件数	1,389	1,449	1,288	1,098	998
収　入	18,901	22,790	19,229	16,169	14,965
収入前年対比	115.3	120.5	84.4	84.1	92.6

（2）目標達成への取り組み

○　**重点**目標

①　在宅における要介護者の多くの方が認知症です。また家族介護者の高齢化は進んでおり、老老介護や認認介護が現実です。要介護状態になっても住み慣れた自宅で暮らし続けることができるよう、本人、介護者への介護サービスの提案や介護方法等の助言を行ない、本人の居場所づくりや介護者の介護負担軽減に資する対応を日々支援の中で行なってきました。また認知症実践者研修会に参加し、認知症の特性や認知症の方の尊厳について学び、認知症に関する理解を深めることができました。

②　事業所内で定期的に毎週伝達会議を行い、見出された課題の解決に向けた意見交換等、ケースを振り返る取り組みを行ってきました。更に、他事業所共同での事例検討会を開催し、多様な視点を活用した課題分析力の習得に取り組むことができました。

（3）研修会への参加や交流会の開催について

①　研修会

コロナ以降、外部研修においてはオンラインでの研修が中心となっております。

各介護支援専門員が掲げた研修目標に添って、資質向上に向けて取り組みました。

・認定調査員研修　　・介護支援専門員協議会研修会

・意思決定支援研修　・家族介護者支援研修　等

②介護者交流会

R6.10月に交流会を開催し、積極的に男性介護者の方も参加して頂きました。

人的体制の状況	令和６年４月	訪問介護事業所より異動	１名
	令和7年３月末	登録職員　未更新	▲１名
	※R7.4 現在、正職員　２名　嘱託職員　１名		

８．社会福祉団体との連携

（1）共同募金会

共同募金会の組織には、中央募金会、新潟県共同募金会、市町村共同募金委員会があり、湯沢町共同募金委員会会長は湯沢町長が任命されています。

共同募金は、町民皆様の戸別募金と企業等からの法人募金や学校募金に大別されます。募金は全て新潟県共同募金会に送金したのち、一部を除き湯沢町に配分され地域の福祉に使われています。

① 募金実績

募　金　種　類	R5	R６	令和６年度の配分金
赤い羽根募金 (戸別募金・法人等募金)	1,661,777 円	1,609,453 円	1,159,813 円
歳末助け合い募金	551,700 円	546,009 円	546,009 円
あったか雪募金	9,356 円	8,481 円	9,688 円
○　湯沢町への配分金は、次のように使われています。 ・身体障害者団体支援　・ボランティア団体支援　・老人クラブ事業支援 ・歳末助け合い慰問事業　・長期入院入所者援助　・各種サロン事業			

② 共同募金運営委員会

第１回	令和６年５月 30 日（木） 湯沢町総合福祉センター 出席７名／８名	・５年度事業報告及び決算報告について ・６年度事業計画及び予算（案）について
第２回	令和７年３月 19 日（水） 湯沢町総合福祉センター 出席６名／８名	・共同募金の実績と配分について ・令和７年度地域助成金の配分決定について

③ 助成審査委員会

第１回	令和６年６月 12 日（水） 湯沢町総合福祉センター 出席５名／５名	・６年度事業計画について（報告） ・６年度助成金申請書の審査、内定について
第２回	令和７年２月 18 日（火） 湯沢町総合福祉センター 出席５名/５名	・６年度共同募金の実績報告について ・７年度地域助成金の配分決定について

④ 共募事務局長会議

令和６年８月６日（火） リモート会議	・５年度事業報告決算について ・６年度募金目標額等計画について
令和７年２月 27 日（木） リモート会議	・６年度事業実績について ・事業見直しについて７年度事業計画について

（2）愛の協力運動

町内会のご協力により、本年度も更生保護法人新潟県保護観察協会の事業に賛同いただく方から愛の協力金として取りまとめをいただきました。

◎　募金実績

募　金　種　類	R5	R６
愛の協力運動協力金	556,600 円	550,200 円
○　愛の協力金は、次のように使われています。 ・社会を明るくする運動支援　　・保護司会の活動支援 ・保護観察対象者支援　　・更生保護施設への助成		

◎社会を明るくする運動

日にち	運動内容
６月２８日	社会を明るくする幟旗掲示（７場所に 30 本他）
７月１日	社明ノートを湯沢学園児童生徒に贈呈（458 冊） 街宣車で町内一円を社明広報
その他	ＦＭ雪国で町長からのメッセージを放送（12 回）

９．苦情相談、ヒヤリハット、介護用品等貸出等の状況

（1）福祉サービスに関する苦情解決について

苦情相談の状況	R2	R3	R4	R5	R6	内　容
苦情相談件数	2 件	1 件	1 件	1 件	0 件	

（2）ヒヤリハット等報告

訪問介護事業所	件数	内　訳			備　考
		身　体	身体以外	その他	
ヒヤリハット	5	0	0	5	訪問日時等
サービス内容	0	0	0	0	
物品の取り扱い	5	0	0	5	物品の破損等
その他	7	1	0	6	忘れ物をした等
車両事故	0	0	0	0	
合　計	17	1	0	16	

通所介護事業所	件数	内　訳			備　考
		身　体	身体以外	その他	
ヒヤリハット	7	4	0	3	
事　故	2	2	0	0	
車両事故	1	0	0	1	
合　計	10	6	0	4	

児童クラブ	件数	内　訳			備　考
		身　体	身体以外	その他	
ヒヤリハット	6	0	1	5	出欠確認ミス等
事　故	0	0	0	0	
その他	1	1	0	0	体調不良児の水遊び(保護者未確認)
合　計	7	1	1	5	

（3）介護用品等貸出状況　　（　R5　）

貸出用品	車椅子	ポータブルトイレ	シャワー椅子	ストレッチャー	合計
件　数	18 件 （34 件）	8 件 （6 件）	5 件 （1 件）	0 件 （1 件）	31 件 （42 件）

社会福祉法人

湯沢町社会福祉協議会

届けよう　小さな愛　つなげよう　笑顔の輪